

く れ よ ん なみだ
クレヨンたちの涙

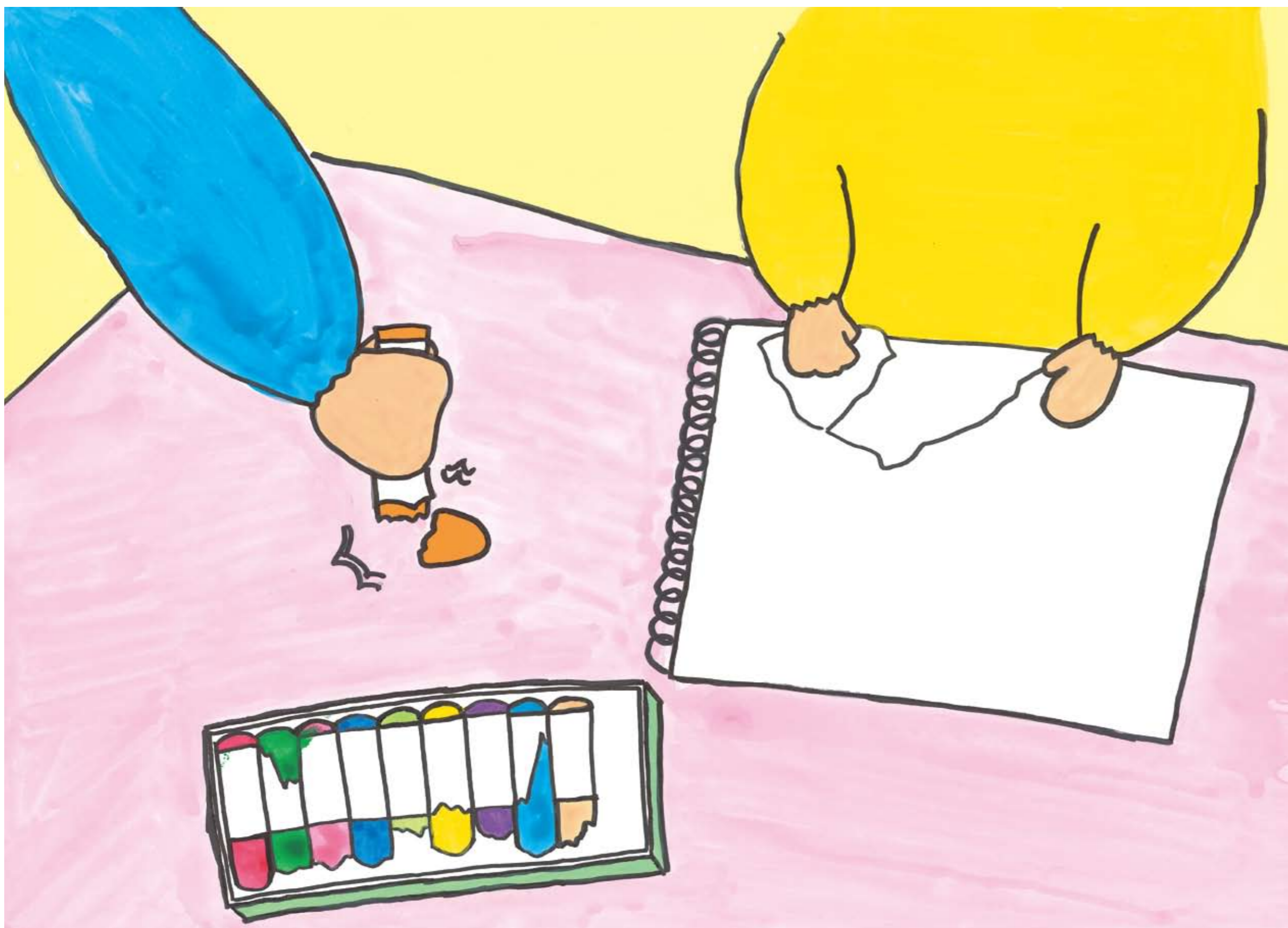




ここは
『ニコニコがくえん』。

おへやのなかで、みんなで
おえかきをしています。

ごうくとみれいちゃんも
たのしそうに、おえかきを
しています。



ぽきっ
ポキッ!

「あっ、クレヨンが
おれちゃった。
ほかのいろもすこし
みじかくなってきたから、
もういらない!
あたらしいものをかって
もらおっと!」
ごうくんがいました。

びりっ
ビリッ!

「おえかきちょうが
やぶけちゃった。
のこりもすくないし、
すてちゃおうかな!」
みれいちゃんがいました。

あらあらふたりとも、
まだまだつかえるのに・・・



ふたりは、おえかきを
やめて、おそとへあそびに
いってしまいました。

ごうくんは、さんりんしゃ
であそびます。

みれいちゃんは、
すなあそび。
ふたりとも たのしそう。



さんりんしゃであそんでいた
たごうくんにみれいちゃん
が こえをかけました。

「ごうくん、いっしょに
すなばで あそぼうよ！」

「うん、いいよ。」

さんりんしゃをなげだして、
おかたづけもしないで
そのままです。



ふたりは、なかよく
すなやまをつくって
あそんでいましたが・・・。

みれいちゃんのもっていた
バケツばけつがほしくなった
ごうくんが
「ちょっとかして!」と
ひっぱりました。

「やだ、やめて」
みれいちゃんは、
ゆずろうとしません。



ぱりっ！！

おおきなおとがして、
バケツがこわれてしまいました。

「あーあ、こわれちゃった。
わたし、しーらない。」

「ぼくだって、しらないよ！」
と いて、こわれたバケ
ツをそのままにして、
ふたりはおへやにはいって
しまいました。



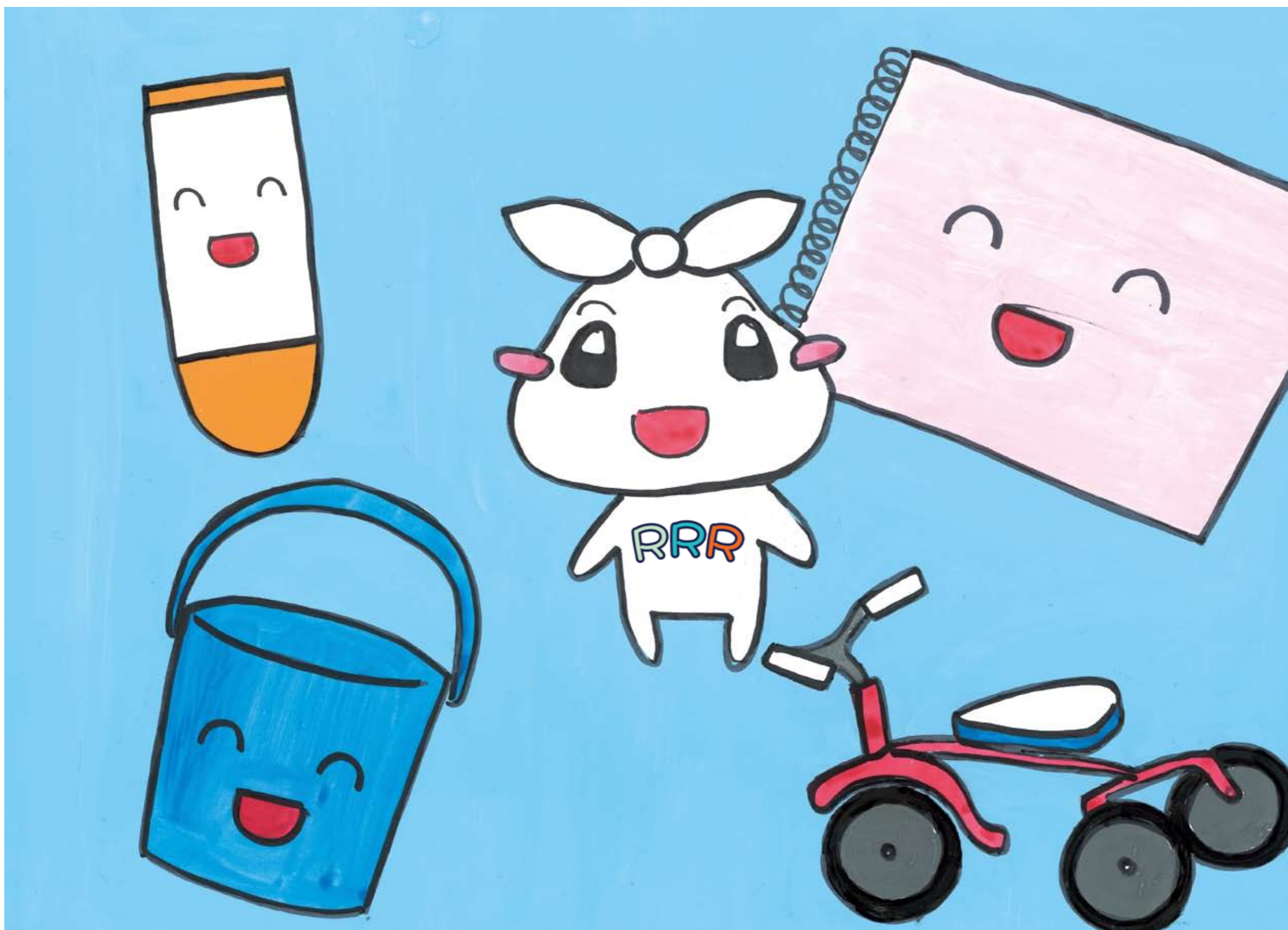
おひるごはんをたべている
と、おそとはあめがふって
きました。

おなかがいっぱいになった
ふたりは、なんだかねむく
なってウトウト…。

シクシク、シクシク……
どこかでだれかがないてい
ます。



それは、「もういらない」
といわれたクレヨンや
すてられたおえかきちょう、
こわれたバケツ、
あめにぬれたさんりんしゃ
たちだったのです。
みれいちゃんは、きいてみ
ました。
「みんな、どうしてないて
いるの？」
するとクレヨンたちは
「わたしたち、まだまだ
つかえるのに…」
といています。
こわれたバケツとさんりん
しゃたちも
「みんなでつかうものだから、
たいせつにつかってほ
しいのに…」
そういつて、シクシクない
ています。



そこにごみ^{ぜろ}ゼロのく^ろにから
きた リーちゃん^{りーちゃん}があらわ
れて、こうい^いいました。

「そうだよね。クレヨン^{くれよん}も
おえかき^{おえかき}ちょうもまだまだ
つかえるよね。バケツ^{ばけつ}や
さんりん^{さんりん}しゃだ^だって、らん
ぼう^{らんぼう}にしなければ ^{ながく}
つかえるのに。

あたらしいものをど^んど^ん
か^かってもら^らうのではな^なく、
みんなが ^{いま}も^もっている
ものをたいせつ^{たいせつ}につ^つか^かって
ほ^ほしいな!

そうすれば、ごみ^{ごみ}になるも
のがへ^へるし、クレヨン^{くれよん}たち
もよろこ^{よろこ}ぶよ。」



ごうくとみれいちゃんが
いいました。

「うん、わかったよ！」
「ごめんね。これからは
たいせつにつかうね。」

ふたりのことばに
りーちゃんはうれしそうに
「おともだちにもおしえて
あげてね。

やくそくだよ！！
それじゃ、さよなら。」

と いい、ごみ^{ぜろ}のくに
へとかえっていきました。



うとうとしていたごうくん
とみれいちゃん。

ぱっとおきあがって、
さっそくおえかきのどうぐ
をせいりしたり、さんりん
しゃをかたづけて、こわれ
た^{ばけつ}バケツもせんせいにつ
てなおしてもらいました。

そして、おともだちにも
このふしぎなできごとを
おしえてあげました。

ごうくんやみれいちゃん、
おともだちのみんなも
きっとこれからものを
たいせつにつかってくれる
ことでしょう。

みんなも、ごうくんや
みれいちゃんたちのように、
ものをたいせつにつかっ
てね！

おしまい

この絵本は、暮らしの中のごみについて、
子どもたちに関心をもってもらうために
作成しました。

絵本をとおして、子どもたちと一緒に
どうしたらごみを減らせるか
考えてみてください。

